

和歌山病院の実習を終えて



芝野 秀哉

今回和歌山病院での実習でまず一番に印象に残ったのは結核の患者さんにお会いできたことです。これは和医大ではまず経験できないことだと思います。また患者さんに実際お会いする前に、結核についても再度勉強できたこともいい経験でした。4年の時にも授業でも学んだはずでしたが、実際の患者さんに触れ合うことでより理解が深まりました。N95 マスクも普段病棟では付ける機会も少なく、経験出来てよかったです。

一番印象に残ったのは結核のことについてですが、一番今後自分が医師になっていく上で大切なことを学べたのは、南方先生による正常画像の理解でした。X線画像はどの道に進んでも関わっていくことになる検査であり、また授業だけでは理解し難いものでもあります。それを理解し難い理由から始まり、正常ではどうなるかを質問も交えつつ教えてくださいましたので、今ではX線画像に対しての抵抗もなくなりました。

体を動かして肺の区域を覚えた「ブロンコ体操」も印象的でした。実習が終わり、帰った後もブロンコ体操を続けていると完全に覚ええました。これもとても役に立ち、肺癌がどこにあるかなど細かく理解できるようになりました。

今回の和歌山病院での実習は2日間と時間は短かったのですが非常に密度が濃く、大変貴重な経験をさせて頂きました。本当にありがとうございました。